

卓 話

ゼンノマネジメント(株)レーシングマネージャー 片山良三
「職場見学＝栗東トレーニングセンターについて＝」



友好クラブ締結 打ち合わせ会

岡山丸の内ロータリークラブより7名の訪問を頂き、例会後に友好クラブ締結に向けての打ち合わせ会を行いました。



会長 小川俊彦さんよりご挨拶をいただきました。



ハイライトよねやま 173号

(米山記念奨学会ニュース WEBより抜粋)

●寄付金速報 2015-16年度も好調スタート●

2014-15年度がスタートして約1カ月が経ちました。7月の寄付額は約2億1,200万円で、前年度と比べて3.3%増、約670万円の増加となりました。普通寄付金が1.7%増、特別寄付金が7.6%増と合計金額は2009年度以降の6年間で最高額を達成し、昨年と同様に2億円の大台を突破することができました。好調な滑り出しに寄付者の皆様に厚く御礼申し上げます。日本のロータリーが世界に誇る米山奨学事業の継続と発展のため、今後ともご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

●台湾学友会による日本人対象奨学金 第6期生決定

台湾米山学友会(正式名称:(社)中華民國扶輪米山会)が恩返しの気持ちから始めた「日本人若手研究者奨学金」が6年目を迎えました。第6期生の募集には9人の応募があり、台湾米山学友会理事会による厳正な選考の結果、以下の合格者2人が決定しました。合格者には今年9月から1年間、台湾学友会から毎月25,000台湾ドル(約85,000円)が支給されるほか、学友会メンバーがカウンセラーとなって、台湾での留学生生活を物心両面で支えます。

三浦 崇志さん(23)

現在、国立高雄大学応用経済学部にて在籍しており、9月より国立政治大学大学院修士課程に進学予定。ベンチャー企業の投資変化など、台湾・中国・日本の関係を経済観点から考察したいとしている。

関口大樹さん(25)

9月より国立台湾師範大学大学院修士課程へ進学予定。激動の時代を歩んだ台湾の日本語世代の歴史を記録し継承することを研究テーマに掲げ、さまざまな世代との交流・出会いに意欲を見せている。

●マレーシア・ベトナムで学友会の集い

当会職員の訪問を機に、マレーシア、ベトナムでそれぞれ、母国に帰国した米山学友が集まり、新たなネットワークづくりの第一歩が記されました。

マレーシアには今年5月、岩邊事務局長と坂下事務局アドバイザーが訪問。首都クアラルンプールでは5人、ペナンでは9人の学友が集まりました。各会合では、学友会設立に向けた課題が話し合われ、今後も両拠点間で連携を図り、早期実現を目指して、協議を続けていくことを決めました。

ベトナムには6月に、岩邊事務局長、坂下事務局アドバイザー、武本事務局員の3人が訪問し、ハノイとホーチミンで学友との集いが開かれました。首都ハノイでは8人の学友が集まり、参加者の一人、フィン・ムイさんが学長を務めるタンロン技術学院の日本語授業の見学機会も設けられました。また、ホーチミンでは19人の学友が集まり、にぎやかな交流会となりました。国情からベトナムでは学友会の設立が難しい面もありますが、これを機にハノイ・ホーチミンそれぞれで定期的に米山学友が集まろうと、参加者の思いが一つになり、学友の掘り起こしもできた有意義な訪問となりました。